

# 身体障害者診断書・意見書（肢体不自由用）

総括表

氏 名	年 月 日生( )歳	男・女
住 所		
1 障害名（部位を明記）		
2 原因となった 疾病・外傷名		
交通・労災・その他の事故・戦傷・戦災・ 自然災害・疾病・先天性・その他（ ）		
3 疾病・外傷発生年月日		
年 月 日・場所		
4 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）		
障害固定又は障害確定（推定）		
年 月 日		
5 総合所見		
6 将来再認定（障害程度の変化の見込み）		
要（時期 年 月） ・ 不要		
7 その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付記する。		
年 月 日		
病院又は診療所の名称		
所 在 地		
診療担当科名 科 医師氏名		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見（障害程度等級についても参考意見を記入すること。）		
障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に		
該当する。（ 級相当）……		
該当しない。		
部 位		等 級
		級
		級
		級

備考

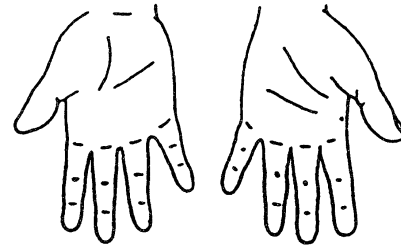
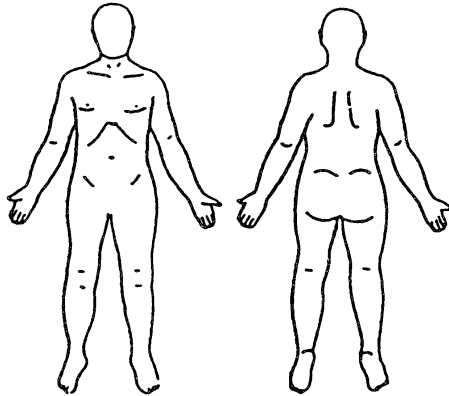
- 1 障害名には現在起っている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢まひ、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。
- 2 障害区分や等級決定のため、いわき市社会福祉審議会から改めて次ページ以降の部分についてお問い合わせする場合があります。

肢体不自由の状態及び所見

◎ 神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○で囲むこと。）

- 1. 感覚障害（下記図示）      なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 2. 運動障害（下記図示）      なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 3. 起 因 部 位                  脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4. 排尿・排便機能障害          なし・あり
- 5. 形 態 異 常                  なし・あり
- 6. そ の 他 の 所 見

参 考 図 示 （関係のない部分は記入不要）



右                                  左

(切断の場合は、切断部分を明確に記入すること)

右		左
	上 肢 長 cm	
	下 肢 長 cm	
	上 腕 周 径 cm	
	前 腕 周 径 cm	
	大 腿 周 径 cm	
	下 腿 周 径 cm	
	握 力 kg	

× 変形      ■ 切離断      ▨ 感覚障害      ≡ 運動障害

【計測法】

- 上 肢 長：肩峰 → 橈骨茎状突起                  前腕周径：最大周径
- 下 肢 長：上前腸骨棘 → (脛骨) 内果              大腿周径：膝蓋骨上縁10cmの周径（小児等の場合は別記）
- 上腕周径：最大周径                                  下腿周径：最大周径

◎ 動作・活動（自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—×、( )の中のものを使う時は該当するものを○で囲むこと。）

つまむ〔新聞紙が引き抜けない程度〕	右	洋式便器に座る	
	左	排せつの後始末をする	
握る〔丸めた週刊誌が引き抜けない程度〕	右	寝返りをする	
	左	いすに腰掛けている(背もたれ・支え)	
コップで水を飲む	右	〔正座 横座り あぐら 脚投げ出し〕で座る(背もたれ・支え)	分
	左		
はしで食事をする(スプーン、自助具)	右		
	左	片足で立つ	右 秒 左 秒
顔を洗いタオルでふく			
歯ブラシで歯を磨く(自助具)	右	立ち上がる	右
	左	(手すり、壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具)	左
タオルを絞る〔水をきれ程度〕		家の中の移動	
背中を洗う		(壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具、車いす)	
かぶりシャツを着て脱ぐ		二階までの階段を上って降りる	昇
ワイシャツを着てボタンをとめる		(手すり、つえ、松葉づえ)	降
靴下を履く〔どのような姿勢でもよい〕		屋外での移動(つえ、松葉づえ、車いす)	
ズボンをはいて脱ぐ〔 〃 〕		公共の乗物を利用する〔タクシーを除く〕	

(注) 身体障害者福祉法の等級は機能障害 (impairment) のレベルで認定されますので ( ) の中に○が  
ついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

◎ 歩行能力及び起立位の状況（該当するものを○で囲む）

- (1) 歩行能力(補装具なしで) : 正常に可能・(2km・1km・100m・ベッド周囲)以上歩行不能・不能
- (2) 起立位保持(補装具なしで) : 正常に可能・(1時間・30分・10分)以上困難・不能

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) (この表は、必要な部分を記入すること。)

筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )
右				左
( ) 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈 ( ) 頸 ( )	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	左屈 ( ) 右屈 ( )
( ) 前屈		後屈 ( ) 体幹 ( )		左屈 ( ) 右屈 ( )
( ) 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	伸展 ( ) ( ) 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	屈曲 ( )
( ) 外転		内転 ( ) 肩 ( ) 内転		外転 ( )
( ) 外旋		内旋 ( ) ( ) 内旋		外旋 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 肘 ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 回外		回内 ( ) 前腕 ( ) 回内		回外 ( )
( ) 掌屈		背屈 ( ) 手 ( ) 背屈		掌屈 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 中手指節 ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) (MP) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 近位指節 (PIP) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	伸展 ( ) ( ) 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	屈曲 ( )
( ) 外転		内転 ( ) 股 ( ) 内転		外転 ( )
( ) 外旋		内旋 ( ) ( ) 内旋		外旋 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 膝 ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 底屈		背屈 ( ) 足 ( ) 背屈		底屈 ( )

備考

注：

- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
- 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
- 3 関節可動域の図示は、 $\left\langle \longleftrightarrow \right\rangle$ のように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。  
強直の場合は、強直肢位に波線（ $\wr$ ）を引く。
- 4 筋力については、表（ ）内に×○△印を記入する。  
×印は、筋力が消失又は著減（筋力0、1、2該当）  
△印は、筋力半減（筋力3該当）  
○印は、筋力正常又はやや減（筋力4、5該当）

筋力表

- |       |        |                      |
|-------|--------|----------------------|
| 5（正常） | normal | ： 正常の筋力。             |
| 4（優）  | good   | ： かなりの抵抗にうちかって運動できる。 |
| 3（良）  | fair   | ： 重力にうちかって運動できる。     |
| 2（可）  | poor   | ： 重力を除くと運動できる。       |
| 1（不可） | trace  | ： 筋収縮をふれるが運動はおこらない。  |
| 0（ゼロ） | zero   | ： 筋収縮をふれない。          |

- 5（PIP）の項母指は、（IP）関節を指す。
- 6 DIPその他手指の対立内外転等の表示は、必要に応じ備考欄を用いる。
- 7 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

